

下野市立南河内中学校

1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う生徒の育成

2 研究計画

(1) 研究のねらい

本校では、一昨年度と昨年度の2年間、「主体的に自分の将来を切り拓く生徒の育成～わかる・できる学習の実践を目指して～」を学校課題とし、学習に主体的に取り組む「学ぶ意欲」を持たせるために、自分の将来の夢や希望をもち、その実現に向けて学習に取り組ませることに力を入れて取り組んできた。また、通常の学級において個別の支援を必要とする生徒が多いという現状から、通常の学級における学習支援も研究してきた。この研究により、学習に取り組む姿勢や学力に少しずつ改善の兆候が見られ、授業規範の問題も改善の方向にある。

一方、本校の課題として、語彙力やコミュニケーション力の乏しさから、人間関係を難しいものにしていたり、表現することに消極的になったりという生徒が見られるということがあげられる。コミュニケーション力は、本校の学校経営方針にもある、他と「つながる」ためには不可欠なものである。また、言葉の力は思考力や感受性を支え、全ての教育活動の基盤となるものであるとも言える。このようなことから、2022年度の義務教育学校設立に向け、小学校とともにコミュニケーション力の育成に向けての推進研究を行うこととなった。本校でも学校課題を「主体的に表現し、伝え合う生徒の育成」と設定し、コミュニケーション力の育成に向けた研究に取り組んできた。

(2) 研究のすすめ方

①全校体制での取組

- ・研究の目的を明確にし、全職員の共通理解のもとに進める。
- ・全職員が関わり、全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査結果の分析を行う。本校の学習指導の課題について共通理解を図り、問題解決に向けた取り組みについて話し合う。

②校内研究会の充実

- ・S&Uラボ事業を積極的に活用し、研修の活性化を図る。
- ・研究授業を全職員で参観し、授業研究会で意見交流を積極的に行うことで、授業改善を図る。

3 研究内容

(1) 主な研究

月	研修会	研修内容
4月	研究推進委員会	【学校課題共有】 ・本研究計画の立案・検討
	全体研修会	・学校課題のとらえ方と研究の方法・進め方の確認・共通理解
	教科部会	・各教科等で研究計画の話合い ・各教科等で研究計画（教科経営計画）の作成
7月	生徒による授業評価	・生徒アンケートによる授業評価
8月	職員研修	・全国、とちぎっ子学力学習状況調査結果の分析 ・学校課題と各教科の研究課題の方向性の検証と確認 ・教員による授業の自己評価
	小中連携研修(学区)	・「コミュニケーション力育成」についての情報交換 ・小中連携の理解と推進
	個人研究	・生徒による授業評価の集計結果の考察
10月	職員研修	【校内授業研究会】 ・3年道徳科 D-(19) 生命の尊さ「臓器ドナー」 研究授業・授業研究会
11月	職員研修	【校内授業研究会】 ・2年道徳科 C-(10) 公德心「美しい鳥取砂丘」 研究授業・授業研究会

		【S & U コラボ事業】 ・講師 司城 紀代美 先生 ・2年英語科 program 7 「学習したことを生かして、より詳しい自己紹介をしよう」 研究授業・授業研究会
1 2月	職員研修	【S & U コラボ事業】 ・講師 松本 敏 先生 ・1年社会科 地理的分野 「世界の諸地域～北アメリカ州～」 研究授業・授業研究会
	小中連携研修	【小中一貫授業研究会】 ・講師 太田 洋 先生 ・1年英語科 My project 2 「人を紹介しよう」 ・講話 「小・中の学びをつなぐ英語教育」
1月	職員研修	【校内授業研究会】 ・1年道徳科 B－(8) 友情、信頼 「旗」 研究授業・授業研究会
3月	研究推進委員会 教科部会 全体研修会	・成果と課題の確認と次年度の計画立案に向けた話合い ・生徒の変容の確認（実態調査の実施） ・研究課題のまとめと反省の検討 ・研究のまとめと次年度への課題

(2) 研究の実際

① 1月27日（水）S&Uコラボ事業

授業研究会 2年英語科 program 7 「学習したことを生かして、より詳しい自己紹介をしよう」

指導者 宇都宮大学教育学部 准教教 司城 紀代美 先生

講話 ※学校課題と学習支援に関する内容の講話

動名詞や不定詞などの既習事項を用いて、ALT に詳しく自己紹介する学習である。導入時に動画を使ったり、支援の必要な生徒のためにヒントカードを用意したりと、表現力をつけるための様々な手立てがある授業であった。研究協議では、コミュニケーションの苦手な生徒への支援についての様々な意見が出された。指導講評では、通常学級の中での特別支援についてや、子どもの良いところを伸ばす授業づくりについてご指導いただいた。



② 12月11日（水）S&Uコラボ事業

授業研究会 1年社会科 地理的分野 「世界の諸地域～北アメリカ州～」

指導者 宇都宮大学教育学部 教授 松本 敏 先生

講話 ※研究授業と学校課題を関連させた内容の講話

アメリカ合衆国が世界に与える影響が大きい理由を、キーワードカードを活用してランキング形式で考える学習である。研究協議では、キーワードの扱い方や、活発な話し合いをさせるための様々な取組について意見が出された。指導講評では、常に、自分に授業を通してどんな力を育むのか問いかけることの大切さや、学力調査の分析と根拠を明確にした教育を行うことについてご指導いただいた。



4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

生徒を対象としたアンケートの「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対して、肯定的な回答が4月より2月の方が9.7%高く、「自分の行動や発言に自信をもっている」は11.8%高かった。

(2) 研究の課題

生徒による学校評価の「授業のわかりやすさ」「学習の楽しさ」「授業での積極的な学習」の質問において、好意的回答が昨年度の結果より下回っていた。これらは学力の低下にもつながり、コミュニケーション力の育成にも影響すると考える。改善に向けたさらなる研究に力を入れていきたい。

